



一陽
金田
一陽
金田

其部

2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 51 52 53 54 55 56 57 58 59 60 61 62 63 64 65 66 67 68 69 70 71 72 73 74 75 76 77 78 79 80 81 82 83 84 85 86 87 88 89 90 91 92 93 94 95 96 97 98 99 100

鳥年印今榮物二言を享
事本樣化語出面ス

圖の信三

お丁は金糸を塞ぐくおまね
維時弘化丁未歲初秋稿脱
同戊申年新春發兌

一筆茶井主人識



此巻の蕙花の香を以て
花鳥餘情の蕙物を埋む源と
尋ねては梅の花の香を以て
元ふ理と陰懷録の香譜を載唐
中も梅の花の香物より香を制する
者諸香を以て氣味梅の花の如く
一も是を辨く返魂梅と云と見え
る後梅の香の梅玉集の蓮の香
水近くうづめたるゆゑと云の香
ひもこれの池の香と云と云蕙花集
抄の何の香の梅と云と云夏月集
芳を梅と云と云梅の花の香の
云てと云と云の香の云と云と云侍後
と云と云秋風涼の香の云と云と云

るひふのりる 富川房信画



お丁は金糸を塞ぐくおまね
維時弘化丁未歲初秋稿脱
同戊申年新春發兌

此巻の蕙花の香を以て
花鳥餘情の蕙物を埋む源と
尋ねては梅の花の香を以て
元ふ理と陰懷録の香譜を載唐
中も梅の花の香物より香を制する
者諸香を以て氣味梅の花の如く
一も是を辨く返魂梅と云と見え
る後梅の香の梅玉集の蓮の香
水近くうづめたるゆゑと云の香
ひもこれの池の香と云と云蕙花集
抄の何の香の梅と云と云夏月集
芳を梅と云と云梅の花の香の
云てと云と云の香の云と云と云侍後
と云と云秋風涼の香の云と云と云

のりる

卷の名
耀元琵琶を弾く催馬樂の
梅ヶ枝を唱ふ

わめくふふふふふ
夢や葉うけ
二段
三段
あつた
うやまふ



薰物合の後
このうけを
わめくふふふふふ
あつた
此の
足利の
室の
上

此糸君ハ筆琴を
千鳥の曲を奏する

わめくふふふふふ
夢や葉うけ
二段
三段
あつた
うやまふ

あつた
うやまふ
二段
三段
あつた
うやまふ



足利
耀元卿

泣れあうい
うなせは

あふ
あり

こころあ
人や

人ま
あふ

霧の宰相の比
足利雲井之丞氏仲



陽うそ

うなれ

うなれ

あふ

あふ

あふ

あふ

雲井の厂ふ比
赤松高直の

息女

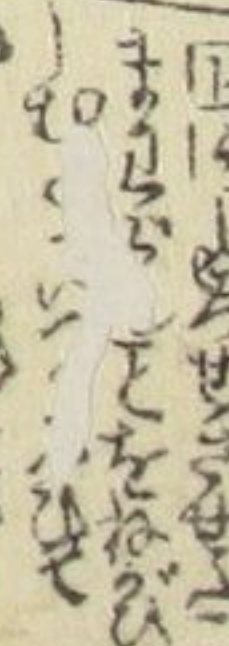
雁音



[illegible][illegible]

[illegible][illegible]

晉書卷三



濱島室町の
所を退出す

下第三

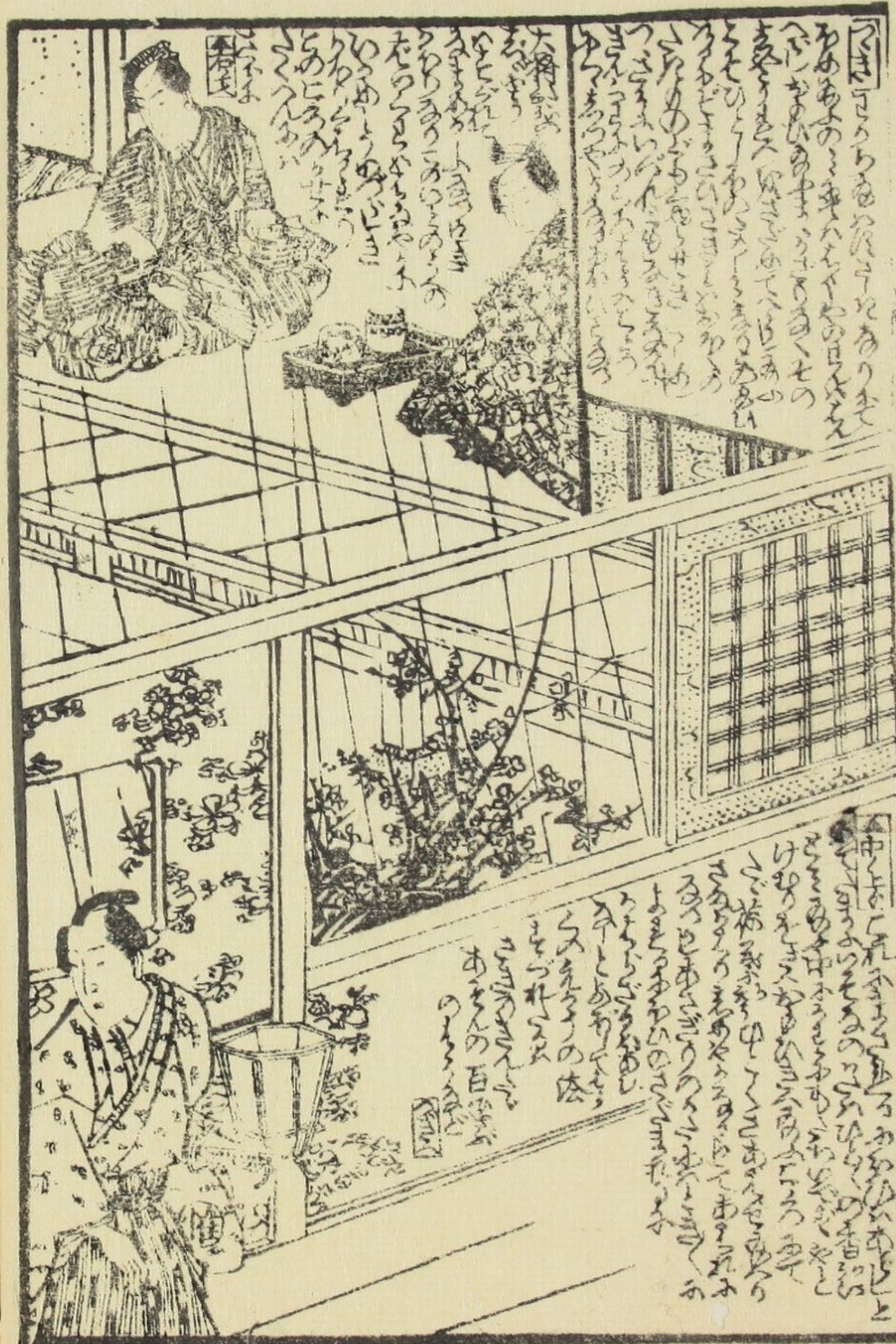
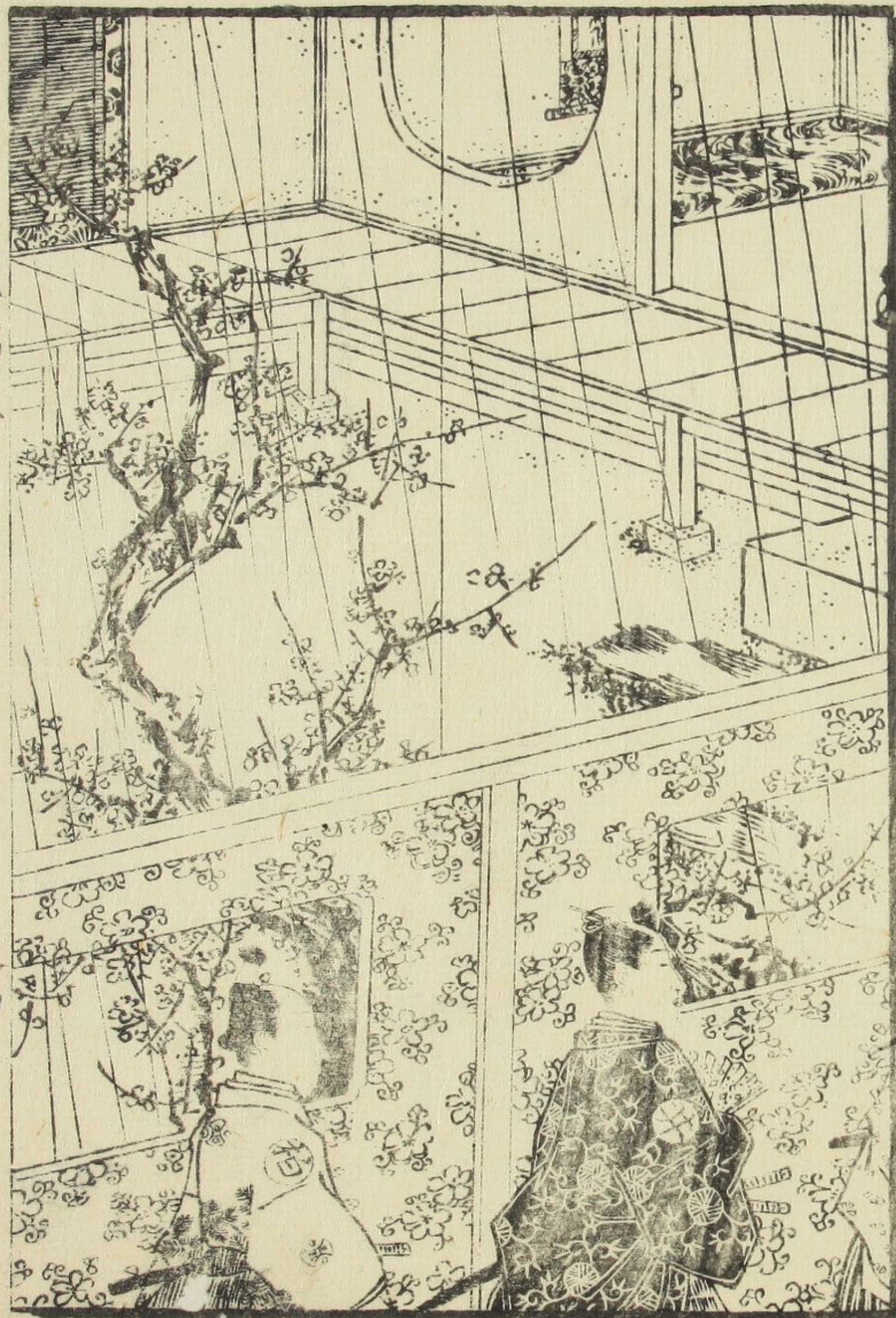


A black and white woodblock print illustration of a Japanese interior scene. Two women in traditional kimonos are standing in a room with sliding doors (shoji). One door is open, revealing a view of a garden with a large, gnarled tree. The room has a low ceiling and a tatami floor. The style is characteristic of Edo-period Japanese art.

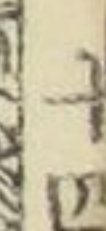
[illegible][illegible][illegible]

やぐちやくい
せとんあひま
れることあり
せしるべし
りある日
ふも
香の

○市元振のてゝひくる君は
十二夜あてうのうら
あふみのごみだんぶくろに
こころをてひたれそり
をさきてらんかりを
めさせあふを
そりま
ゆきこころ
あふこの
りえんとへ
ふつせん
女との
しやうぞふ
ともめて
させあふ
るうこじ
香寿の
君ぎも十
二夜あひ
姫も十二
夜ふるを
あふ
あり



固德

[illegible]

梅の巻

迎慶招福

備書

柳枝



六編

板出

七

貞

清錄
全編

五編

毒藥國良臣 六編

一嘉嘉圖文

錦昇堂

志を成す所
必しもやん

